

最上川調査から見えてきた最上川の景観

米沢中央高等学校 科学部 佐藤佑

1. はじめに

私たち中央高校科学部は 21 年間最上川の水質・景観の調査を続けてきた。(1992～2011 はボートによる調査、2012 からは調査地点を 38 ケ所に絞っての調査) その中で最上川の水質浄化作用のメカニズムや水質の科学的分析などを進めてきた。

長年、最上川を研究していく中で最上川の景観的美しさに我々は心を奪われてきた。しかし、近年その景観を崩してきているものがある。それが河川周辺に散乱しているごみである。これまでも本科学部は何度か河川の清掃活動に参加したことがあるが大量のごみを回収した記憶がある。果たして、最上川流域に住む山形県民としてこのままで良いのだろうかと感じ、ごみについて調べることに決めた。

2. ごみの調査

採水を行う海老ヶ沢大橋～出羽大橋までの全 38 か所において、ごみの有無、また、あった場合にどのようなゴミがあるのかを採水する際に周囲を観察し記録をとることにした。以下は各採水地点の景観及びゴミの有無、ごみの種類などをまとめたものである。

3. 調査の結果

① 海老ヶ沢大橋

ゴミはほとんど見つけることができなかった。源流に近いため、比較的きれいである。

② 住之江橋

植物に分断され、流れが急な部分とまったく流れていない部分がある。飲料水のビンや缶などのゴミを確認することができた。

③ 新田橋

兩岸に草木が生い茂っている。流れは緩やかである。ゴミを確認することはできなかった。

④ 置賜橋

川幅が広がっている。現在は草木が生い茂っている。スーパーなどのビニール袋が数点確認できた。

⑤ 糠野目橋

左岸にアスレッチ遊具やバーベキューなどを行うスペースがある。ゴミが非常に多く確認された。ビニール袋、ペットボトル、空き缶などが確

認された。

- ⑥ 夏目橋
スノーダンプの残骸と思われるゴミが確認できた。
- ⑦ 松郷堰
ゴミを確認することはできなかった。
- ⑧ 下田橋
空き缶を複数確認することができた。
- ⑨ 幸来橋
農業用のビニール、空き缶などのゴミを確認することができた。
- ⑩ 松川橋
農業用ビニール、雑誌などのゴミを確認することができた。
- ⑪ 長井橋
流れがやや速い。ビニールやプラスチック製品と思われるゴミが確認できた
- ⑫ 陸橋
農業用のビニール、空き缶、ペットボトルなどのゴミを確認することができた
- ⑬ 黒滝橋
空き缶、ペットボトルなどのゴミを確認できた
- ⑭ 大船木橋
ゴミは比較的少なく、少量のビニールがある程度。
- ⑮ 上郷ダム
せき止めているためかゴミは非常に多い。ペットボトルや空き缶、発砲スチロール、プラスチック製品など多岐にわたっている。米沢からここまでのゴミが集まっている状態
- ⑯ 五百川橋
ゴミは少なめで、ビニール類が少しある程度
- ⑰ 明鏡橋
ゴミを見つけることはできなかった
- ⑱ 最上橋
ゴミは少なめで、ビニール類が少しある程度
- ⑲ 長崎大橋
タバコの空き箱、ビニールなどのゴミを確認できた
- ⑳ 村山橋
空き缶、ペットボトル、食品トレーなど多くのゴミを確認できた。左岸にヘドロ状のものが確認された。

- 21 谷地橋
プラスチック、ビニールなどが確認された。特にビニールが多い
- 22 基点橋
ゴミは確認できなかった。管理が行き届いている印象を受けた
- 23 長崎橋
ゴミは確認できなかった。管理が行き届いている印象を受けた
- 24 隼橋
ビニールや食品トレーなどが多く落ちていた
- 25 大橋
農業用のビニールなどのゴミを確認できた
- 26 亀井田橋
農業用のビニールなどのゴミを確認できた
- 27 大浦橋
農業用のビニールなどのゴミを確認できた
- 28 猿羽根橋
大量の農業用のビニールなどのゴミを確認できた
- 29 堀内橋
大量の農業用のビニールなどのゴミを確認できた
- 30 本合海
紙くずなどのゴミが少しある程度
- 31 古口橋
空き缶やペットボトル、ビニール
- 32 滝沢
プラスチック、ペットボトル、ビニールなど多数
- 33 柏沢
ゴミは確認できなかった。
- 34 清川橋
ペットボトルや発泡スチロール、プラスチック製品を中心に多数のゴミが確認された
- 35 庄内橋
プラスチック製品やビニールなど多数のゴミが確認された。
- 36 庄内大橋
プラスチック製品やビニールなど多数のゴミが確認された。またサッカーボールなどもあった
- 37 両羽橋
ゴミはあまり確認できなかった

38 出羽大橋

ペットボトルや空き缶などのゴミを確認できた

4. 考察

ほとんどの調査地点においてゴミを確認することが出来た。これは、最上川が山形県を横断するよう流れており支流を含めると山形全域に流れていると言っても過言ではない。そのため本流付近で捨てられたゴミだけでなく支流で廃棄されたものが川の流れに乗って本流に集まってきているということも考えられる。

5. おわりに

今回の調査でやはり多くのゴミが最上川に存在しているということが分かった。現状は、ごみを捨てた多くの人が最上川にこれだけのゴミが流れ着くという意識がないものと考えられる。この状態を変えていくには、一つは河川の清掃などの活動を積極的に行い、最上川の現状を多くの人に伝えていくことが大切である。その様な活動を続けていくことで、徐々にゴミを捨ててはいけないという意識を構築していくことが出来ると考える。